

八女の里 自衛消防組織編成表

【自衛消防隊長】		施設長 松尾 宗敏
【自衛副消防隊長】		部長 野田 清隆
業務名	避難訓練(昼間)	
【概要】		
屋間のステイン八女の里 1・2階での火災を想定して、作業指示者の指示に従って適宜に定められた役割を果たし、①火災場所の確認 ②初期消火活動 ③消防署への通報 ④非常放送設備にて館内緊急非常放送 ⑤避難誘導等を行う。		
【担当係】		
・作業指示者	(A) 主任及び副主任	(B) 副主任及びチーフ
・初期消火係	(C) ユニット職員	
・消火器運搬担当者	(D) ユニット職員	
・非常連絡担当係	(E) ユニット職員	
・避難誘導係	職員全員	
※作業指示者 (B) はユニット 3 階、4 階、グラン、特養を指示する。		
・救護係	看護職員・介護職員・事務員	避難場所で、人員の確認と救護に当たる。
【方法】 (ぼたんフロア キッチンにて火災が発生した想定)		
1	自動火災報知機の非常ベルが鳴る。ユニット 1、2 階職員は特養寮母室に行き寮母室内にある表示盤にて火災発生場所を確認する。職員は近くの消火器を手に取り現場に直行する。	
2	作業指示者 (A) は初期消火係 (C) に初期消火にあたるように指示。消火器運搬担当者 (D) に残りの消火器を持ってくるように指示。非常連絡担当者 (E) に特養寮母室に戻り消防署への通報及び非常館内放送を行うように指示する。	
※作業指示者 (B) は各部署へ連絡し指示を行う。		
(D) は残りの消火器を (C) まで運び避難誘導にあたる。(C) は初期消火不能と判断した場合は入居者の避難誘導にあたる。		
3	非常連絡担当者 (E) は、特養 寮母室に戻り 119 番自動通報用押しボタンを押す。	
(119 番自動通報後、消防署から折り返し確認の電話が入るためその場を離れない。)		
例『特別養護老人ホーム介護職の〇〇です。2 階ぼたんユニットより、火災が発生しました。』		
※『グラン玄関側に至急お願いします。』消防署に現状を的確に伝える。その後、非常館内放送を行う。		

業務名	避難訓練(昼間)
	例『火災発生、火災発生〇〇より火災発生速やかに避難して下さい。』を2回繰り返す。
4	避難誘導の方法は1階ユニットはこすもす5番居室の横のドアより外へ避難誘導行う。 2階ユニットは、ぼたん1番居室横のベランダへ避難誘導行う。 救護係は避難場所にて待機し入居者の方の確認及び救護にあたる。
	※各部署の避難方法※
	・ユニット3、4階 … 3階ユニットはランプの誘導に従い、ランプの光に沿って中庭へ避難誘導行う。 4階ユニットはランプの誘導に従い、ランプの光に沿って中庭へ避難誘導行う。 ※3、4階ともに中庭の防火シャッターを閉める。
	・グラン八女の里 … グランはランプの誘導に従い、ランプの光に沿って中庭へ避難誘導行う。 医務室・210・209・室はベランダがないので、早く避難誘導を行う。 ※防火シャッターを閉める。
	・特養 八女の里 … 1階はデイサービス前の駐車場に避難誘導行う。 2階はベランダよりデイサービス屋上に避難誘導行う。 ※静養室はベランダがないので最初に誘導する。 あじさい、7居室は段差がある為外に出れないので他の居室よりベランダへ。
5	各部署毎に避難完了者の人員確認し、各責任者より防火管理者又は施設長に報告する。 『特養、〇〇名逃げ遅れた者はいません。』 『グラン、〇〇名逃げ遅れた者はいません。』 『ユニット1・2階、〇〇名逃げ遅れた者はいません。』 『ユニット3・4階、〇〇名逃げ遅れた者はいません。』 防火管理者及び施設長は、人員報告後に消防署職員へ報告を行う。
	【業務上の注意点】
	・各扉は原則としてすべて閉める。(延焼速度を遅くする為)
	・初期消火可能なら初期消火活動に取り組む。(天井まで火が昇っていたら初期消火不能と判断する)
	・人命第一にの原則に則り、避難誘導を行う。 (特に、認知症の人の場合は避難場所に一旦誘導しても戻ってくる可能性があることに注意する。)

